

★人の心を大切にする教育をめざして★

春らしく穏やかな気候に心が和む季節となりました。今日から新年度がスタートしました。保護者の皆様におかれましては、お子様の新年度に向けての準備に余念がなかったことと存じます。本日の始業式では、小学部に6名、中学部に3名の転入生を迎えます。また、10日（木）の入学式では、小学部12名、中学部34名、高等部43名が新たに仲間入りをします。全校児童生徒364名が「青陽須磨支援丸」に勇んで乗り込み、私たちは支援者として寄り添っていきます。令和7年度という大海原に広がるそれぞれの目標に向かって1年間の航海に挑みます。時に荒波が襲ってこようとも、みんなの合言葉は「誰一人取り残さない」です。



そのためには、学校が子供たちにとって「安心できる居心地のよい場所」であることが大切です。授業や行事などさまざまな教育活動を推進していく上で、安心感があるからこそ地に足つけて深く考えたり、共感し協力したりすることができると言えます。この安心感は一朝一夕に育まれるものではありません。すべての人が確かな「人権意識」を持ちながら子供たちと関わることが重要です。広い定義を持つ人権ですが、ここでいう「人権意識」とは、

- ① すべての人が生まれながらに持つ権利を尊重し合い、お互いの違いを認め合う。
 - ② すべての人が相手の人格を傷つけるような言動をせず、思いやりをもって行動する。
- の2つに集約できると私は思います。安心感は居心地のよさにつながっていくでしょう。

以上の考えから今年度も「人権ファースト」を学校運営の中核に据え、誰一人取り残さない教育を推進していきたいと考えています。人権意識を高め維持していくことは、人として



大切な生き方にも結びつくと思います。子供たちが安心して学校生活を送れるように、私たち教職員は子供たちの模範となってともに歩みます。そして、保護者の皆様とともに考えながら子供たちの成長の後押ししができればと心より願っています。

大阪湾の人工島・夢洲で「2025 大阪・関西万博」が4月13日（日）～10月13日（月）の184日間にわたり開催されます。1970年の大阪万博以来、まさに55年ぶりの節目の祭典ですね。文責：寺沢 光明